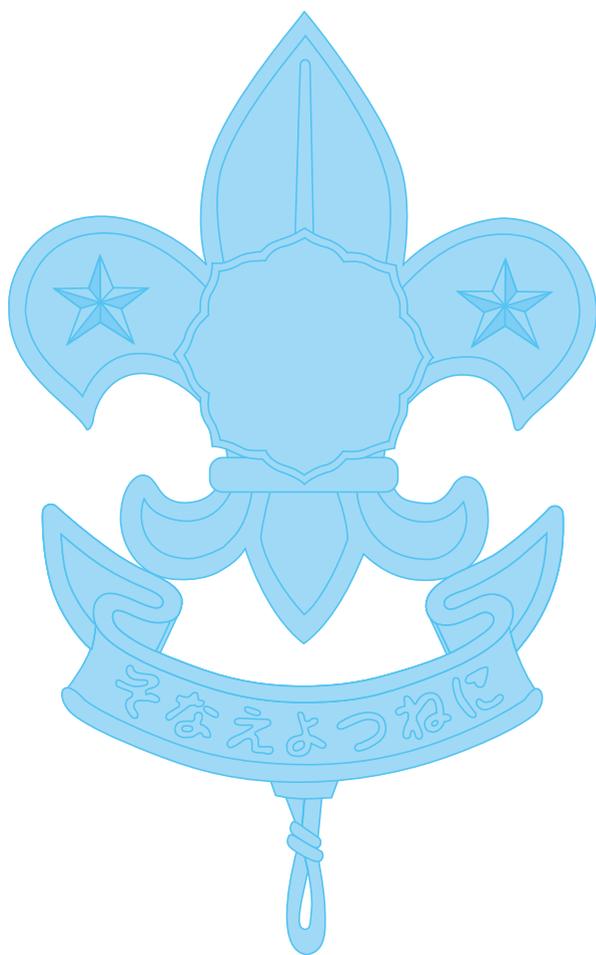


本願寺派スカウトのための 「ちかい」と「おきて」の意味



Meaning of "Swearing" and "Law" for Scout of Hongwanji



浄土真宗本願寺派
スカウト指導者会篇

目 次

| | |
|-----------------------------|----|
| 凡 例 | 1 |
| はじめに ～「ちかい」と「おきて」に対する解釈の姿勢～ | 2 |
| 「ちかい」の意味 | 6 |
| 前 文 | 7 |
| 第一条 | 9 |
| 第二条 | 11 |
| 第三条 | 13 |
| 「おきて」の意味 | 16 |
| 第一条 | 17 |
| 第二条 | 19 |
| 第三条 | 21 |
| 第四条 | 23 |
| 第五条 | 25 |
| 第六条 | 27 |
| 第七条 | 29 |
| 第八条 | 31 |
| 発刊にあたって | 33 |

凡 例

1. 本書は、バーデン・パウエル卿のボーイスカウト運動の基本的な精神と生活の規範である「ちかい」と「おきて」の意味について改めて窺い、仏教徒としてどのように受け止めるべきなのかということを整理し理解するための解説書である。
2. 「ちかい」と「おきて」に関する各条項について、以下の処置を施した。
 - ①「ちかい」については、「本文（『日本連盟規定集』所収の文言）・英訳」「意味（本文の意訳）」「解説」の順に記した。
 - ②「おきて」については、「本文（『日本連盟規定集』所収の文言）・英訳」「意味（『日本連盟規定集』所収の文言）」「解説」の順に記した。
 - ③「ちかい」の「本文（前文・第一条～第三条）」と、「おきて」に関する「本文（第一条～第八条）」及び「意味」は、『日本連盟規定集』（平成21年度版）所収の文言であるので、イタリック体で表記した。
3. 本書の解説その他のなかで引用した文言については、各条項の末尾にその出拠を記した。



はじめに



～「ちかい」と「おきて」に対する解釈の姿勢～

ボーイスカウト運動は、バーデン・パウエル卿（1857-1941）がイギリスのブラウンシー島に20名の少年たちを集めてキャンプを行ったことに始まり（1907）、翌年、彼の主著となる『Scouting for Boys』が刊行されると、少年たちから保護者に至るまで、あらゆる世代の人々に絶大な支持を得るようになりました。以来、世界的な規模で急速に拡がり、現在では、その人口は2800万人に達しています。

このように宗教や国境の垣根を越えて、世界中の人々に受け入れられた背景には、彼の少年たちに対する深い愛情と、敬虔なキリスト教徒としての姿勢に対する信頼があると考えられます。それは、彼が晩年に残した「社会人に贈る最後の言葉^①」というメッセージの中に、顕著に窺うことができます。

次代の人々の幸福のためにキリスト教精神で平和と人類の幸福のために尽されたいのである。80余年のわが人生を顧みて、人生の短りしことと、政治的戦争の無価値を現実を知るのである。最も貴重なることは、他の人々の生命を尊重し幸福にすることである。

また、ボーイスカウトに残したメッセージの中では、

真に幸福を得るためには人々に幸福を与えることであろう。諸君がこの世を去るときが来たらば、よりよき世界として去ることである。幸福なるために「そなえよつねに」の精神を生かして、スカウトのおきてを十分に生かすことである。諸君が少年より成人して後も諸君に神の加護のあらんことを。

と述べています^②。これらの言葉から、彼がキリスト教の教えを通して、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現をめざしていたことが窺えます。

その目的は、他の宗教を否定し、キリスト教圏の拡大をめざすものではありません。ボーイスカウト運動は、彼が出会った教えを通して、宗教や国境の垣根を超えた、すべての人々の幸せを願ったものです。そうでなければ、今日あるような世界的な運動にはならなかったでしょう。そして、このようなボーイスカウト運動の基本的な精神と生活の規範を示したものが、『Scouting for Boys』に記されている「ちかい」と「おきて」です。

昨今、無宗教であることが好ましいとする考え方もありますが、これではボーイスカウト運動の礎となっている彼の厚い信仰心を軽視した考え方となってしまいます^③。敬虔なキリスト教徒として、あらゆる人々の幸福を願い、その生涯を献げた彼の姿勢に学ばなければなりません。

それは、彼がキリスト教との出会いを契機として、ボーイスカウト運動に臨んだように、私たちは仏教の教えを縁として、同じ目標、す

なわち、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現に向かって、ボーイスカウト運動に臨んでいくということです。したがって、私たちは、ボーイスカウト運動の基本的な精神と生活の規範である「ちかい」と「おきて」の意味について改めて窺い、仏教徒としてどのように受け止めるべきなのかということを整理し理解する必要があります^④。

ボーイスカウト運動は、指導者をはじめ、すべてのスカウトを、宗教的な回心^⑤へと導く架け橋^⑥となるものであり、宗教的な情操のなかで、彼が示した「ちかい」と「おきて」の意味を考えるということは、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現をめざすものであるといえます^⑦。

【註 記】

- ① 『バーデン・ポーエル伝(Baden-Powell THE TWO LIVES OF A HERO by William Hillcourt with Olave,Lady Baden-Powell)』村山 有訳(財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)247頁。
- ② 『バーデン・ポーエル伝(Baden-Powell THE TWO LIVES OF A HERO by William Hillcourt with Olave,Lady Baden-Powell)』村山 有訳(財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)243頁。
- ③ 『日本連盟規定集』第1章17項には、「本連盟は加盟員が、それぞれ明確な信仰をもつことを奨励する」(36頁)とあります。また、『指導者のための宗教ハンドブック』(財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)には、次のように記されています。「〈ちかい〉と〈おきて〉の理解と実践は、創始者の設定した根本原理(神、宗教に対する義務。スカウトのちかいとおきての研究と遵守)にもとづいて行われなかったならば、自己流になってしまつて純正ではなくなります。スカウトの指導者の中には宗教の問題に対してあまり関心を示さず、また宗教のことがわからないために避けて通る人がいますが、スカウト教育の鍵の一つが、宗教を基盤とした「人格づくり」とされているならば、これは大きな問題です。まず、指導

者自身が明確な信仰をもたなければ、スカウトに信仰の奨励をすることができないのは当然ですし、少なくとも自ら進んで明確な信仰を求める努力を惜しんではならないことはいうまでもありません」(3頁)。

- ④ ボーイスカウトの「ちかい」と「おきて」に関する解釈の仕方について、次のような点で注意が必要であると考えます。まず、ベーデン・パウエル卿が提唱した「ちかい」と「おきて」は、汎用性の高い普遍的な内容をそなえています。しかしながら、その礎はキリスト教の精神に基づいていますので、不用意に浄土真宗の教義をあてはめて解釈すると、誤った教義理解を促してしまいます。また、浄土真宗は本願他力の教えですから、その他の教義によって解釈することも、浄土真宗の教えと齟齬を来す可能性があります。宗教的な違いを超えて、「ちかい」と「おきて」の普遍性を重視し、専門的な用語を用いず、平易な言葉で解釈するといった方法を取ることが望ましいと考えます。
- ⑤ 「回心」を「かいしん」と読むと、「罪を犯したものが、その罪を悔い改めて更生を誓う」という意味になりますが、ここでは「えしん」と読み、「自己の不信の心に気付いて、宗教の世界に向かって心が開かれること」を意味しています。
- ⑥ 『指導者のための宗教ハンドブック』(財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)「第五章 信仰を奨励する方法」に「橋わたし」という表現で記されています(47頁)。
- ⑦ 「第3回国際スカウト会議の決議文」(1924年)には、次のように記されています。「本運動は、国内の組織を通して各国に有為で健康な国民を育成することを目的とするという点で国家的である。本運動は、スカウトの同志愛に国家の障壁を認めないという点で国際的である。本運動は、あらゆる国、階級、宗教に属するスカウトの間に、差別のない兄弟愛を主張する点で普遍的である。スカウト運動は、個人の信仰を弱めるものではなく、反対に強化するものである。スカウトのおきては、スカウトが真に誠実に信仰を実践することを要求し、本運動の方針として宗派の異なるスカウトの混じっている集会での宗派的な宣伝を禁止する」。

「ちかい」の意味



I swear on my honor to uphold the following three practices.

To act in good faith towards God and my country, and uphold the [Scout] law.

To always help other people.

To strengthen my body, to make sound my mind, and to cultivate virtue.



【前 文】

私は、名誉にかけて、次の三条の実行をちかいます^①。

"I swear on my honor to uphold the following three practices"

【意 味】

私は、すべての人々に信頼されるボーイスカウトとなるように、次の三条の「ちかい」を実行します。

【解 説】

すべての人々に信頼されるボーイスカウトとなるように、常に自らの姿を顧みて、「ちかい」を実行するということを表したものです。

胸に付けている記章や標章の数、社会的な地位や名声が、ボーイスカウトの名誉ではありません。自らの心を顧みる姿勢がなかったなら、自分中心のものの方や考え方にとらわれて、周囲の人々からの信頼を失ってしまうことでしょう。

私たちは、常に、あらゆる人々を等しく包み込むという仏^②のお心を鏡として、自らの心を顧みるということを忘れてはなりません。このように、自らの心を顧みるという謙虚な姿勢を貫いて活動しているボーイスカウトは、自然に周囲の人々から信頼を得るようになるでしょう^③。これがボーイスカウトにとっての名誉ということです^④。



【註記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-4「スカウトのちかい」34頁。
- ② 梵語ブツダ(buddha)の訛音の音写。覚者と漢訳し、「ほとけ」と和訳する。自ら真理をさとり、他をさとらしめ、さとりのはたらきが完全に窮まり満ちた者のこと。(『浄土真宗聖典 七祖篇(註釈版)』1371頁)
- ③ ベーデン・パウエル卿が、キリスト教との出会いを契機として、ボーイスカウト運動に臨んだように、私たちは、仏教の教えを縁として、同じ目標、すなわち、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現に向かって、ボーイスカウト運動に臨まなければなりません。このような姿勢に対して、世界のあらゆる人々から、厚い信頼が寄せられると考えます。
- ④ ベーデン・パウエル卿は、『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)の「スカウトのおきて」の中で、「スカウトの名誉とは、人に信頼されることである」(vi頁)と記しています。



サウジアラビア



南アフリカ



スペイン

【第一条】

仏と国とに誠を尽くし、「おきて」を守ります^①。

*"To act in good faith towards God and my country,
and uphold the [Scout] law"*

【意味】

私は、私を育てている仏と多くの人々や故郷に対して誠実であり続け、おきてを实践するよう最善を尽くします。

【解説】

私たちは、知らず知らずのうちに、自分に都合の良いようにものごとを考え、自己の利益だけを追求しています。しかし、この私は、家族や多くの人々に支えられ、私を育てている故郷のなかで生きています。一人で生きているのではないということを思うとき、はじめて私を含むすべての世界の幸せについて考えることもできるでしょう^②。

私たちは、常に仏のお心を鏡として、私を育てている多くの人々や故郷への思いを忘れないようにし、ボーイスカウトとしての「おきて」を守らなければなりません。あらゆる人々を等しく包み込むという仏のお心に触れたとき、自らの心の狭さを知り、はじめて慈愛に満ちた世界の実現を願い、私を含むすべての世界の幸せについて考え、自らが果たすべきこと（おきて）を理解して、行動することができるでしょう^③。



【註 記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-4「スカウトのちかい」34頁。
- ② ベーデン・パウエル卿は、『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)の中で、「世界のすべての人の友」と題して、次のように記しています。「スカウトは自分の周りにいる人だけの友だちだけではなく、〈世界のすべての人の友〉だということを忘れてはいけない。友だち同士は戦いはしない。私たちが海を越えた隣国の人たちと友だちになり、相手も私たちに友情をもっていれば、戦争をする必要はないのだ。これこそ、将来の戦争を防ぎ、平和を永続させるための何よりの手段である」(404頁)。
- ③ ベーデン・パウエル卿は、『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)の「スカウトのおきて」の中で、「スカウトは、すべての人の友であり、どの国、階級、宗派に属するスカウトとも兄弟である」(vii頁)と記しています。また「スカウティングの世界兄弟愛運動」と題して、次のように記しています。「これは平和のために決定的で広範囲な影響を世界中に及ぼすだろう。だから、あらゆる国のスカウトの間に友情を持たせ、世界に平和と幸福をもたらし、人々の心に善意を育てることに、私たちは最善を尽くすことを誓い合おうではないか」(407頁)。



スリランカ



スウェーデン



スイス

【第二条】

いつも他の人々をたすけます^①。

"To always help other people"

【意味】

私は、どのような時でも、自らの利益を顧みず、他の人々の助けとなるよう最善を尽くします^②。

【解説】

私たちは、常に、あらゆるものを等しく包み込むという仏のお心を鏡として、相手の立場に立って、考え行動しなければなりません。ベーデン・パウエル卿は、「親切」の意味について、次のように述べています^③。

善行は、どんな小さいことでもかまわない。(中略) 何でもよいから、日々の生活においてよいことをするというルールとして、今日から始める。そして、君たちの一生を終わる日まで、決して忘れないで実行するのだ。

また「仁慈」の意味について、次のように述べています^④。

普通の好意からしたような極く些細な行為に対しても、世間の人々は心付け^⑤をもらいたがる。スカウトは決して、心付けを出されても受け取ってはならない。(中略) もし君たちが、いくらくらい



心付けがもらえるだろうかとか、その人もまた、君たちにいくらくらいやればいだろうかなどと考えるようになったら、もう友好的に働くことはできなくなる。

私たちは、いつも他の人々の助けとなるよう心がけねばなりません。ただし、何かをしてあげているという思いのままでは、他の人々の抱える問題を自分自身の問題として捉えられていません。行いの大小に拘わらず、相手の立場に立って、報酬や見返りを求めない姿勢こそ、ボーイスカウトのあるべき姿であるといえるでしょう。

私は、自他の区別をすることなく、すべての人々を救おうとして活動なさっています。このような私の姿から、ボーイスカウトとしてのあるべき姿を学ぶことが大切でしょう。

【註 記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-4「スカウトのちかい」34頁。
- ② Baden-Powellの作成した1908年のテキストには、下記のように記されています。
"I will do my best to help others, whatever it costs me"
- ③ 『Scouting for Boys』by Baden-Powell(第27版)371頁。
- ④ 『Scouting for Boys』by Baden-Powell(第27版)373頁。
- ⑤ 本文中の「心付け」は「チップ」のこと。サービス等に対する感謝の気持ちとして差し出す少額の金銭。

【第三条】

からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います^①。

*"To strengthen my body, to make sound my mind,
and to cultivate virtue"*

【意味】

私は、徳を養うために、身心がゆるぎないものとなるよう最善を尽くします。

【解説】

ベーデン・パウエル卿は、「スカウトのおきてとその意味」について次のように述べています^②。

スカウトは、考え方も言葉も行いも清潔である。(中略)みだらなことを考えたり、したりする誘惑に負けないということである。

この「みだらなことを考えたり、言ったり、行ったりすることなく、清らかな考え方や言葉を心がけよう」というベーデン・パウエル卿の言葉には、ボーイスカウトの身心のあるべき姿が示されています。

まず、本文の「からだを強くし、心をすこやかに」というのは、ベーデン・パウエル卿の言葉から分かるように、単なる肉体の強さや、明るい心を意味しているわけではありません。

仏教における「強さ」や「すこやかさ」は、「大切なことをひるまず実践していくこと」を表現する言葉ですが、本文の「強さ」や「す



こやさか」についても、同じように考えることができます。それは、大切なことに気付き、誘惑に負けず、ゆるぎなくそれを実践していく身心のあり方です。ボーイスカウトは、このような姿勢で、第一条や第二条に示されているように、責務を実践し、他の人々を助けるよう努めなければなりません。

清潔な考え方と言葉と行いとによって、「徳」は身にそなわってきます。また、その「徳」は、ただ身にそなわるだけではなく、周りの人々に対して、恵みを与えていくはたらきともなります。私たちは、仏のお心を鏡として常に自己を顧み、本当に大切なことに気づいて行き、ゆるぎない姿勢で、これを実践していくことが大切です。そして、その実践の中で「徳」が養われ、その「徳」が、周囲からの信頼を得、他の人々を助ける活動を実践する力となっていくのです^③。

【註 記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-4「スカウトのちかい」34頁。
- ② 『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)ix頁。
- ③ 第三条について、『指導者のための宗教ハンドブック』（財団法人ボーイスカウト日本連盟発行）には、「慈しみ愛しむことの大切さを思い、他の人々に働きかけますとの願いであり、真理にいきることをちかうことです」と解説されています(64頁)。

「おきて」の意味



A Scout is faithful (A Scout's honour is trusted).

A Scout is friendly.

A Scout is courteous.

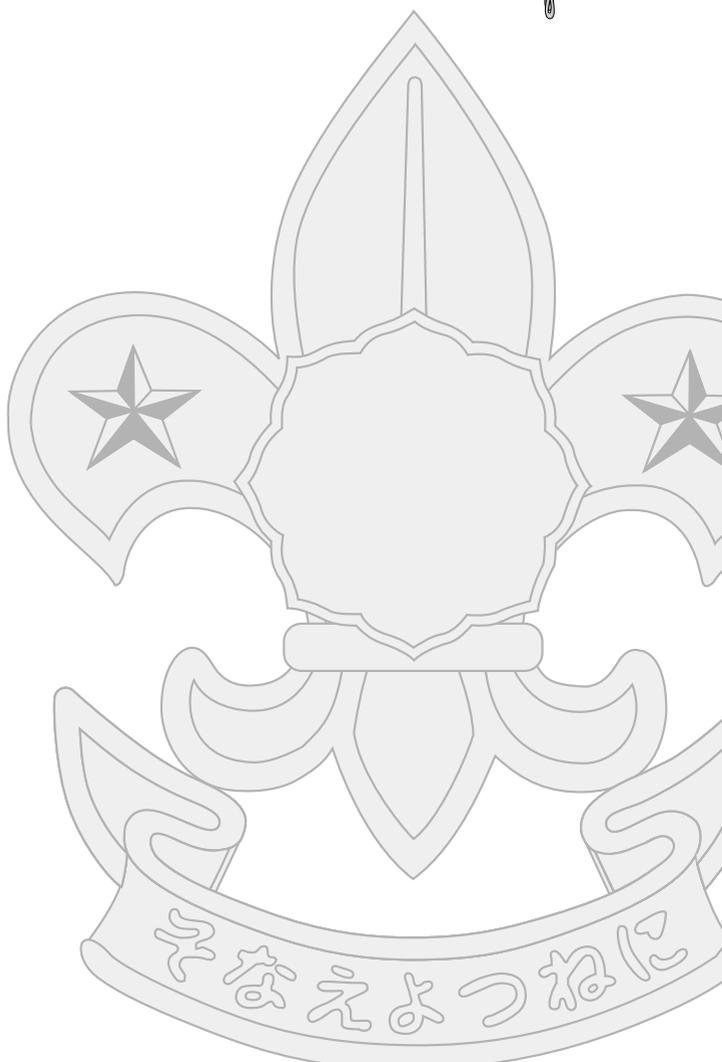
A Scout is kind.

A Scout is cheerful.

A Scout is thrifty.

A Scout is courageous.

A Scout is thankful.



【第一条】

スカウトは、誠実である^①。

"A Scout is faithful (A Scout's honour is trusted)"

【意味】

スカウトは、信頼される人になります。真心をこめて、自分のつとめを果たし、名誉を保つ努力をします^②。

【解説】

誠実とは、人々から信頼されるようになるということ、そのためには、自らが果たすべきこと（おきて）に、誠心誠意、取り組まなければなりません。人々から信頼を失うということや、ボーイスカウトとしての名誉を傷つけるということについて、ベーデン・パウエル卿は、次のように、厳しく戒めています。

スカウトが、嘘をついたり、名誉にかけてすると信用されているのに命令を正確に実行しなかったりして、自分の名誉を傷つけたら、スカウト章を返し、二度とつけないように命ぜられるかも知れないし、さらにスカウトをやめるように命令されるかも知れない^③。

ボーイスカウトは、相手の立場に立って、自らが果たすべきこと（おきて）を理解し、自らの言動に責任をもって、行動することで、周



困の人々からの信頼を得るように努めなければなりません。

しかし、私たちは、知らず知らずの内に、自分に都合の良いようにものごとを考えがちです。あらゆる人々を等しく包み込む仏のお心を鏡として、自らの心を顧みるという謙虚な姿勢を貫き、活動することが大切です。そうした信頼に値する誠実な姿が、周囲の人々から称えられることでしょう。

【註 記】

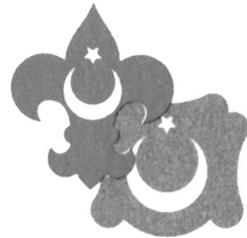
- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ② 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ③ 『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) vi頁。



タイ



チュニジア



トルコ

【第二条】

スカウトは友情にあつい^①。

"A Scout is friendly"

【意味】

スカウトはきょうだいとして仲良く助け合います。すべての人を友とし、相手の立場や、考え方を尊重し、思いやりのある人になります^②。

【解説】

私たちは、家族や多くの人々に支えられて生きているのであり、一人で生きているのではないということを思い起して、常に、他の人々の抱える問題を自分自身の問題として捉え、ともに考え行動するという思いを忘れてはならないということです。ベーデン・パウエル卿は、次のように述べています。

スカウトは、すべての人の友であり、どの国、階級、宗派に属するスカウトともきょうだいである。したがって、スカウトが他のスカウトに会ったら、知らない人であっても言葉をかけ、その人のしている仕事を助けるとか、食物を贈るとか、その他、その人の必要としていることをしてやって、できるだけ助けなければならない^③。

世界には、色々な国や宗教、異なった文化をもつ人々がいます。ポー



イスカウトは、決して、偏見をもつことなく、一人ひとりの違いを尊重し、これらすべての人々の友達であり、常に周囲の人々のことを考え、助け合って行動するよう心がけねばなりません。

私は、自他の区別をすることなく、あらゆる人々を等しく包み込んでいっしょにいます。このような仏のお心から、私たちは、慈愛に満ちた世界の実現を願い、他の人々と共に、生きていくという姿勢を学ぶことが大切でしょう。

【註 記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ② 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ③ 『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) vii頁。



イギリス



アメリカ合衆国



ザイール

【第三条】

スカウトは礼儀正しい^①。

"A Scout is courteous"

【意味】

スカウトは、規律正しい生活をし、目上の人を敬います。言葉づかいや服装に気をつけ、行いを正しくします^②。

【解説】

ボーイスカウトは、規則正しい生活をし、清潔な考え方、正しい言葉づかい、正しい行い、そして、感謝の気持ちを忘れないように心がけるといことです。ベーデン・パウエル卿は、次のように述べています。

スカウトは、すべての人、(中略)に親切である。そして、自分のした手助けや親切に対して、報酬を求めてはならない^③。

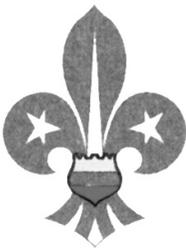
ボーイスカウトは、正しい行動を心がけねばなりません。正しく行動するためには、周囲の人々に対して感謝する心を忘れず、人々を助ける活動を実践することが大切です。特に、私たちを導き育てている先輩を大切にす気持ちるを失ってはならないでしょう。しかし、私たちは知らず知らずの内に、自己中心的になり、配慮を欠いた行動に陥りがちです。



仏は、無私の心で、すべてのものを救い取っていらっしゃいます。私たちは、このような仏のお心を鏡として常に自己を顧み、他の人々を助ける「ちかい」の精神を忘れずに、規律に沿った生活を心がけねばなりません。そうした生活の中で、ボーイスカウトとしての「徳」が養われ、周囲からの信頼を得、また、他の人々に対して、正しく接することができるようになるでしょう。

【註 記】

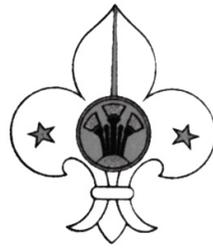
- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ② 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ③ 『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) 337頁。



コロンビア



デンマーク



エジプト

【第四条】

スカウトは親切である^①。

"A Scout is kind"

【意味】

スカウトは、すべての人の力になります。幼いもの、年寄り、体の不自由な人をいたわり、動植物にもやさしくします^②。

【解説】

ボーイスカウトは、いつも他の人々の助けとなるよう心がけねばならないということです。ベーデン・パウエル卿は、次のように述べています。

二つあるうちのどちらをしたらよいか迷った時は、「どちらが自分の義務なのか」つまり「どちらの方が他の人のためになるのか」と考えて、その方を選ぶ。(中略)そして、毎日、誰かに少なくとも一つの善行をするように尽くさなければならない^③。

スカウトは、人をありのままに受け取り、好意をもって、その人を見る^④。

他の人々の抱える問題を自分自身の問題として捉え、行いの大小に拘わらず、自らの利益を優先することなく相手の立場に立って、困っている人々を思い遣り、力になれるよう日々行動することこそ、ボー



イスカウトのあるべき姿であるといえるでしょう。

私は、すべての人々に対して、慈しみの心から、等しく接しておられます。私たちは、このような仏のお心を鏡として、常にボーイスカウトとしてのあるべき姿を学ばなければならないでしょう。

【註 記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ② 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ③ 『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) vii頁。
- ④ 『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) viii頁。



マレーシア



ネパール



オランダ

【第五条】

スカウトは快活である^①。

"A Scout is cheerful"

【意味】

スカウトは、明るく、朗らかに、いつも笑顔でいます。不平不満を言わず、元気よく、進んでものごとを行います^②。

【解説】

ボーイスカウトは、常に周囲の人々のことを考えて、行動しなければなりません。そうしたとき、どのような内容であっても、相手からの報酬や見返りを求めないで、喜び進んで、快活に、ものごとを行うよう心がけるといことです。ベーデン・パウエル卿は、次のように述べています。

やり始めるにあたって、お互いに、泣きごとをいい合ったり、愚痴をこぼしたりしない。にこにこ笑って口笛を吹きながら、やり続けるだけである^③。

どのような内容であっても、それが、他の人々の助けとなることであれば、進んで行くということについて、「口笛を吹きながら」という表現で示しています。

ボーイスカウトは、すべての人々の友達なのですから、常に周囲の



人々のことを考えて、励まし合い、笑顔で、元気よく、進んでものごとを行わなければなりません。そして、このような態度は、ボーイスカウト自身の心のあり方を変えて、勇ましく行動することができるようになるでしょう。

仏教には、「随喜^④」という言葉がありますが、こうした行動を積み重ねていくことによって、「人々のためにする行いが自らの喜びとになっていく」という心が培われていくのです。

【註 記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ② 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ③ 『Scouting for Boys』by Baden-Powell(第27版)89頁。
- ④ 他の人が善い行いをしているのを見て喜ぶこと。



ナイジェリア



ノルウェー



パキスタン

【第六条】

スカウトは質素である^①。

"A Scout is thrifty"

【意味】

スカウトは、物や時間を大切にします。むだをはおき、ぜいたくをせず、役立つものは活用します^②。

【解説】

ボーイスカウトは、どのような時でも、自らの利益を顧みず、他の人々の助けとなるよう、物心ともに、そなえておくということです。ベーデン・パウエル卿は、ボーイスカウトにおける「親切」と「寛大」ということについて、次のように述べています。

善行は、例えば、老婦人が荷物を持つのを助けるとか、混雑した道路を横切る子供を導くとか、慈善箱に小銭をいれるとかいう小さなことでよいのだ^③。

金をためるのが好きで、決してそれを使わない人がいる。儉約は結構なのだが、必要なところに金を出すのも、またよいことだ。

(中略) 慈善をするのには、金持ちになる必要はない^④。

私たちは、知らず知らずのうちに、自分に都合の良いようにものごとを考え、自己の利益だけを追求しています。しかし、私たちは、家



族や多くの人々に支えられて生きていますから、常に、他の人々のことを考えて、いつでも行動できるように、物心ともに、そなえておかなければなりません。そのためには、ボーイスカウトは質素であることを心がけ、蓄えておくことが大切であるということです。

【註 記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ② 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」35頁。
- ③ 『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) 329頁。
- ④ 『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) 331頁。



ペルー



フィリピン



ポルトガル

【第七条】

スカウトは勇敢である^①。

"A Scout is courageous"

【意味】

スカウトは、勇気をもって、正しく行動します。どんな困難なことがあってもくじけずに、新しい道をきり開きます^②。

【解説】

ボーイスカウトは、本当に大切なことに気付き、誘惑に負けず、困難にあっても、ゆるぎなく、それを実践していくように心がけるということです。ボーイスカウトは、考え方も言葉も行いも清潔で、みだらなことを考えたり、したりする誘惑に負けられないという強い意志をもたなければなりません。ベーデン・パウエル卿は、「不屈の精神^③」ということについて、次のように述べています。

困難なことに出くわすと、気が挫けたり、必要もないのに、早くからくよくよして、恐れ心配する人が少なくないものである。彼らは、たちどころに成功しないのを理由に、仕事を断念するが、
(中略)人は、成功を欲するならば、最初はつらさを覚悟すべきである^④。

ボーイスカウトにとって「勇気」とは、清潔な考え方と言葉と行い



を貫く「不屈の精神」で、困難に立ち向かうということです。

仏教には「精進^⑤」という言葉がありますが、さまざまな誘惑や困難を乗り越えて、本当に大切なことを求め、ゆるぎない姿勢で、勇敢に実践し続けていかなければなりません。そして、その実践の中で「徳」が養われ、その「徳」が、周囲からの信頼を得、他の人々を助ける活動を実践する力となっていくことでしょう。

【註 記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」36頁。
- ② 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」36頁。
- ③ 『Scouting for Boys』by Baden-Powell(第27版)347頁。
- ④ 『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行) 388頁。
- ⑤ 懈怠に対する語。勇猛に勉励して、善を修し悪を止めること。



ギリシャ



香港



インド

【第八条】

スカウトは感謝の心をもつ^①。

"A Scout is thankful"

【意味】

スカウトは、信仰をあつくし、自然と社会の恵みに感謝します。お礼の心で、自然をいつくしみ、社会に奉仕します^②。

【解説】

ボーイスカウトは、常に仏のお心を鏡として、私を育てている多くの人々や故郷への感謝の気持ちを忘れないように心がけねばならないということです^③。ベーデン・パウエル卿は、ボーイスカウト運動の目的について、次のように述べています^④。

若い人たちの生活のなかに、無私の善意と協力の精神、そして、それらを日々の実践として教えることである。

この言葉から、自然の恵みや、すべての人々に対する感謝の気持ちを育て、慈愛に満ちた人間社会の実現をめざしていたことが窺えます。

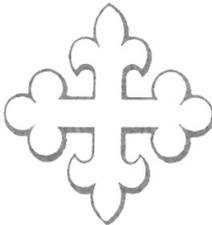
私たちは、あらゆる人々を等しく包み込んでいる仏のお心を思い起しては、自らの心を顧み、感謝の心を忘れないようにしなければなりません。そして、そうした感謝の心は、慈愛に満ちた世界の実現とい



う願いとなって、すべての世界の幸せについて考え、自らが果たすべきこと（おきて）を実践していく力となるでしょう。

【註 記】

- ① 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」36頁。
- ② 『日本連盟規定集』第1章「一般原則」1-10「スカウトのおきて」36頁。
- ③ ベーデン・パウエル卿は、『Scouting for Boys』by Robert Baden-Powell(昭和50年5月18日改訂版・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)の「宗教」の中で、「神への義務を果たすには、いつも神に感謝したまえ。楽しんだり、面白いゲームをしたり、善行をすることができたりした時は、そのことを、食事の時の感謝のような簡単な言葉でよいから、神に感謝したまえ。(中略)人への義務を果たすには、人の助けになり、人のために物を惜みず、受けた親切には感謝を忘れず、その感謝の気持ちを相手に伝えるように気をつけたまえ」(353頁)と記しています。
- ④ 「信仰奨励賞取得のための手引き」(平成20年5月・財団法人ボーイスカウト日本連盟発行)



フィンランド



フランス



西ドイツ

❧ 発刊にあたって ❧

浄土真宗本願寺派
スカウト指導者会理事長
土山 和雅

親鸞聖人 750 回大遠忌法要を迎えた本年、記念すべき解釈書が発刊されました。

スカウティングのすべてともいえる「ちかい」と「おきて」について、本願寺派スカウトとして、どのように受けとめるのかという指針が、「ちかい・おきて検討委員会」の尽力によって完成をみました。

キリスト教の教えを背景としている文言に対して、仏教的な観点から、その意味を受けとめることができるということは、我々指導者会に所属するすべてのメンバーが、今後のスカウティングを実践していく上で、指針となる解釈書であると考えられます。関係諸氏の必読の書として活用されることを切に願う次第であります。

本願寺派スカウトのための
「ちかい」と「おきて」の意味

2011(平成23)年7月20日 印刷

2011(平成23)年7月30日 発行

編集 「ちかい・おきて」検討委員会

協力 教学伝道研究センター

発行 浄土真宗本願寺派スカウト指導者会
〒600-8501

京都市下京区堀川通花屋町下ル

浄土真宗本願寺派組織教化部

電話 075(371)5181

FAX 075(371)1211

印刷 株式会社 アースワーク

本書の無断複写・複製・転載を禁じます。

